

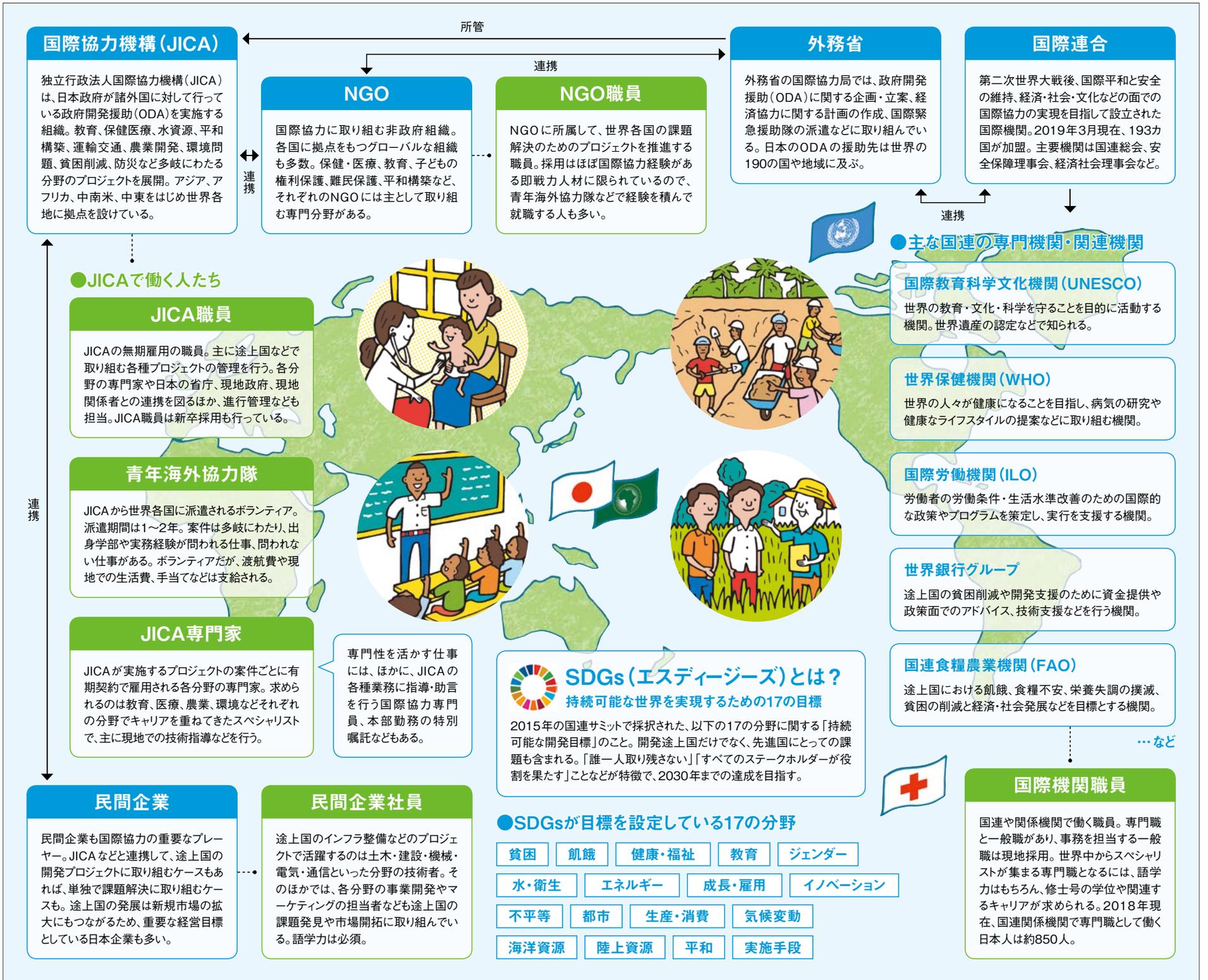
世界の課題解決

に関わる仕事

取材・文/伊藤敬太郎 イラスト/桔川 伸

貧困、医療、食糧、ジェンダー、環境...etc. 世界に山積する課題の解決に取り組む!

世界中には貧困、食糧不足、女性差別、環境破壊などさまざまな「解決すべき課題」があり、ときには現地で、ときには日本にいながら、このような課題に職業として取り組んでいる日本人も大勢いる。では、具体的にどのような組織や仕事があるのだろうか。国際機関からNGO、民間企業までまとめて紹介!



最新の業界事情

民間企業にとってもSDGsは重要なテーマに

上で紹介したSDGsは決して各国政府や国際機関、NGOにとってだけの目標ではなく、民間企業にとっても重要な目標となりつつある。

欧米では既にSDGsを経営目標に採り入れる企業が増えており、日本でもその動きは拡大。経団連の調査(2018年)によると、「事業活動をSDGsの各目標にマッピングしている」と回答した企業は35%。「検討中」「検討予定」も含めると約8割に上った。これからは企業の経営力や将来性などを評価する指標の一つとしても、SDGsが重視されていくことになりそうだ。

「教育を受けることで、子どもたち」

4、5カ月に1回程度の割合で支援先を訪問し、2〜3週間は滞在。現地では、実際に子どもたちや保護者の話を聞く機会も多い。

「教育を受けることで、子どもたち」

彼らがどうしたいのか、を常に意識して活動しているんです」

この職業に就くには

大学では国際学系、外国語学系の学部で語学力を磨き、国際問題への理解を深めることが理想。国際機関やNGOでは新卒採用はしていないことが多く、大学卒業後は、企業への就職や大学院への進学など、それぞれに自分の能力を高めるステップを踏む必要がある。国際協力関連の求人はJICAが運営する「Daiwa」というサイトで探すことができる。

中島さんの「1日」

国内にいるときは9時に出勤し、メールチェック。夜中に海外から届いているメールも多い。午後は他のNGOとの会議に出席することも。オフィスに戻たら、会議の内容を提案書にまとめ、18時半ごろ帰宅。

中島さんは同組織の職員として働き始めて2年目。現在は、ジンバブエでの中学校建設や教師の育成などに携わっている。

「外務省などの公的機関から支援のための資金を調達するチームに所属しています。現地とやりとりを重ね、支援計画を練ってドナー(資金提供者)への申請を行うほか、現地を調査して開発状況をドナーに報告する役割などを担っています。私たちはあくまで支援する立場で、主役は現地の皆さん。ですから、彼らがどうしたいのか、を常に意識して活動しているんです」

「外務省など公的機関から支援のための資金を調達するチームに所属しています。現地とやりとりを重ね、支援計画を練ってドナー(資金提供者)への申請を行うほか、現地を調査して開発状況をドナーに報告する役割などを担っています。私たちはあくまで支援する立場で、主役は現地の皆さん。ですから、彼らがどうしたいのか、を常に意識して活動しているんです」

職種 PICK UP!!

NGO職員

公益財団法人
プラン・インターナショナル・ジャパン
プログラム部 プログラムオフィサー
中島 玖さん (28歳)

山形県立山形西高校、東京外国語大学外国語学部欧米第二課程フランス語専攻(学部・課程・専攻名は当時)卒業。新卒で大手出版社に就職し、2年で退職。2016〜2017年にかけて英ブロードフォード大学大学院に留学して紛争解決学を学ぶ。帰国後、現職。

は自信をもち、自分の将来に夢を抱くことができるようになる。直接そんな言葉を聞くと、自分のしていることが未来をよくすることに貢献しているんだと実感できますね。きっかけは小学5年のとき、テレビで見た同年代の少年兵の姿だった。「私はこういうことをなくすための仕事をしたい」。そのときの思いが、今も中島さんの原点にある。